

2017 年度常設展第 4 期

ステイプル・エングレーヴィングとメゾチント

2018 年 1 月 5 日(金)~4 月 8 日(日)

美術作品の複製版は現在では写真が使われるのが一般的ですが、かつては版画によって制作されていました。今回ご紹介するふたつの銅版画技法は、明暗の調子(トーン)や立体感が表現でき、油彩画などの複製技術として発明されたものです。いずれも写真の登場によって一時はすたれてしまいましたが、独自の表現をもつ技法としてふたたび取上げられ、現在にいたっています。

メゾチントは 17 世紀中頃にドイツで発明された技法です。ベルソ(ロッカー)という道具でまず版全体に細かい傷をつけ、全面にまくれを作ります。この版を刷ると、全面がピロードのような質感を持った黒に刷り上がります。次に、スクレイパーなどでまくれを部分的にとりのぞき、みがくことで、さまざまな段階の明暗の調子(グラデーション)を作りだし図像を描きます。黒一色の画面に光で描いていくようなイメージが思い浮かぶのではないのでしょうか。ドイツからイギリスに伝えられると、肖像画など油彩画を版画化する技法として急速に広がりました。

ステイプル・エングレーヴィングは 18 世紀中頃にイギリスで発展した技法です。「ステイプル」とは「点描法」のことで、針やルーレット、マトワールといった道具を用いて版面に細かな点を打ち、その粗密で明暗や立体感を表現します。「エングレーヴィング」という、金属の版を刃物で直接刻む技法の名がつけられていますが、酸による腐蝕を利用した手法が広く用いられていたようです。輪郭線はエッチングやエングレーヴィングの線で描き、部分的に用いられることも多い技法です。

今回の展示では、主に複製技術として用いられた 17-19 世紀のヨーロッパの作例と、版画表現として新たな視点でとりあげた現代の日本の版画家たちの作品をご紹介します。

◇凡例 各データの記載順は以下の通り:

作者 題名 制作年 技法 寸法(縦×横)

ラインのプリンス・ルパート(1619-1682)

原画:ピエトロ・デラ・ヴェッキア (1602/03-1678)

旗手

1658 メゾチント 282×202mm



ピーター・シェンク(1660-1711)

グラフトン公

17 世紀末? メゾチント 249×183mm

ピーター・シェンク(1660-1711)

『四季』より 冬

17 世紀末 18 世紀初 メゾチント

245×180mm

リチャード・フーストン(1721?-1775)

原画:ジョシュア・レノルズ (1721-1792)

グリーンウェイ嬢

1770 頃 メゾチント 350×250mm

ジャック=ファビアン・ゴージェエ=ダゴタイ(1716-1785)

『人体解剖図』より 男性(背面)

1759 刊 メゾチント(4 版)

662×458mm, 605×460mm

ジョン・マーチン(1789-1854)

『失樂園』より メゾチント

万魔殿の出現 1824 256×365mm

泉のほとりのイヴ 1824/25 256×356mm



デヴィッド・ルーカス(1802-1881)

原画:ジョン・コンスタブル (1776-1837)

サフォーク州ストゥアー川

1831 刊 メゾチント 178×252mm

サミュエル・ウィリアム・レノルズ(父)(1773-1835)

原画:トマス・ガーティン (1775-1802)

オールド・ウーズ橋と聖ウィリアム教会堂

1823-24 メゾチント 148×226mm

ウィリアム・ラドクリフ(1783-1855)

原画:ウィリアム・ターナー (1775-1851)

『リッチモンドシャーの歴史』より タタム教会から見たホーンビー城

1822 エングレーヴィング 190×270mm

S. マイヤーズ(推定)(19 世紀後半に活動)

原画:ウィリアム・ターナー (1775-1851)

タタム教会から見たホーンビー城

19 世紀後半 メゾチント 205×290mm

ジャン=ロベール・ブティ(1743-1780)

原画:フランソワ・ブーシェ (1703-1770)

手足を伸ばした裸婦

18 世紀後半 クレヨン法エッチング 325×459mm

ジョン・キース・シャーウィン(c.1715-1790)

原画:ヘンリー・ウィリアム・バンバリー (1750-1811)

愛の物語

1786 ステイプル法エングレーヴィング、エッチング 458×371mm



フランチェスコ・バルトロツィ(1727-1815)
原画:マリア・コズウエイ (1759-1838)
時の女神ホーラたちーグレイの春によせる頰による
1788 刊 スティップル法エッチング、エンブレイヴィング 453×513mm

フランチェスコ・バルトロツィ(1727-1815)
原画:レオナルド・ダ・ヴィンチ (1452-1519)
男の顔
1796 スティップル法エッチング、エンブレイヴィング 355×253mm

ジャン=フランソワ・ジャニネ(1752-1814)
原画:ユベール・ロベール (1733-1808)
メディチ家の館の柱廊と庭園
1776 年頃 点刻を併用したエッチング、エンブレイヴィング(黄、青、赤、黒の4版) 396×302mm

J. デュテ(1800-1840 頃活動)
原画:ペーテル・パウル・ルーベンス (1577-1640)
『マリー・ド・メディシスの生涯』より 統治の至福
19 世紀初頭 スティップル法エンブレイヴィング、エッチング(インク詰め分けによる一版多色刷り) 368×263mm

『シェークスピア名場面版画集』より
スティップル法エンブレイヴィング

ロバート・テュー(1758-1802)
原画:ヘンリー・フーズリ (1741-1825)
「ハムレット」エルシノア城の胸壁
1796 498×624mm

ウィリアム・レニー(1769-1831)
原画:ジョン・グラハム (1754-1817)
「オセロ」寝室
1799 568×416mm

『フローラの神殿』より

ルイス・ホープウッド(1749-1833) 原画:ヘンダーソン
オーリキュラ
1803 スティップル法エンブレイヴィング、エッチング、アクアチント、一部手彩色 468×360mm

リチャード・アーロム(1743-1822)
原画:フィリップ・ライナグル (1749-1833)
カナダユリ
1799 メゾチント、一部手彩色 480×360mm



ジェームズ・テイソ(1836-1902)
朝
1886 メゾチント 488×260mm

原画:エドゥアール・マネ (1832-1883)
A. プレースト『フランス芸術』より 春(ジャンヌ)
1891 フォトグラヴェール 220×160mm

長谷川潔(1891-1980)

摩天楼上空のポアンダンテロガシオン号
1930 メゾチント 185×288mm

骰子と独楽と幸運の星
1962 メゾチント 267×361mm

浜口陽三(1909-2000)

メロンと筆
1955 メゾチント 295×295mm

西瓜
1981 メゾチント 240×550mm

玉上恒夫(1922-2007)

錫ウキスキーフラスコ
1985 アクアチント、メゾチント 360×230mm

縞のボトルとメジャーカップ
1991 エッチング、アクアチント、メゾチント 360×330mm



深沢幸雄(1924-2017)

『アルチュール・ランボー 酔いどれ船』より 黒い海馬
1982 メゾチント 240×180mm

憂愁市街(迷路)
1985 エッチング、アクアチント、メゾチント 745×496mm

丹阿弥丹波子(1927 生まれ)

箆
1976 メゾチント 296×365mm

初冬の花
1995 メゾチント 360×296mm

中林忠良(1937 生まれ)

○氏の午睡

1968 メゾチント 144×109mm

鈴木信吾(1944-1993)

思い出のディスプレイ

1987 ステップル法エングレーヴィング 330×290mm

冬の対話 I

1989 ステップル法エングレーヴィング 330×290mm

冬の対話 II

1989 ステップル法エングレーヴィング(凸版刷り) 293×355mm



浮世絵玉手箱

三代歌川豊国(1786-1864)・歌川広重(1797-1858)

東都高名会席尽 嘉永5年(1852) 大判錦絵

橋もと 牛若丸

浅草蔵前 八百やお七

小倉庵 梅の由兵衛

畦地梅太郎 (1902-1999) コーナー

郊外の道 1928 頃 鉛凸版 204×270mm

八ツが岳からの富士〔冬〕 1951 木版多色 240×326mm

晴日 1956 木版多色 560×361mm

初冬の声〔地の声 一〕 1963 木版多色 345×241mm

2018年1月5日発行

町田市立国際版画美術館 東京都町田市原町田 4-28-1

<http://hanga-museum.jp/>